

個別課題: キャンサーボードの有益な利用方法  
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
19 社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院	がん総合診療センターの機能を院内で周知するためにキャンサーボードの有益な利用方法を検討する	①患者支援センターを通じた紹介のうち、がん疑い等の症例についてキャンサーボード対象症例としてセンター内で情報共有、検討する。 ②院内の全科に出席を依頼する。特にがん症例を扱っていない診療科にも関連症例などを通してのキャンサーボードへの参加を勧める。 ③キャンサーボード結果を院内でインフォメーションする。	①キャンサーボードは半年間で14回開催された。患者支援センターを通して紹介された症例も7例ほど含まれていた。 ②院内全診療科に参加は呼びかけているが、がん症例を取り扱っていない診療科の出席には至らない。 ③キャンサーボード結果は個人情報の問題もあり、管理職級に限定して3回ほど配信を行ったが、反応は薄かった。	①地域からの紹介や退院後のフォローなどにも目配りできるという利点があり、さらに症例数を増やしていくように症例の抽出をルーティンワークとする必要がある。 ②さらに半年呼びかけを続け、院内の連携協働体制を構築する。 ③配信結果に反応が薄かったが、院内ニュースレターのような形で広く周知してみることも検討する。しかしながらもうしばらく続け、再検証したい。